

科目名	QOLと人間の尊厳	授業コード	110181B401	単位数	2単位
担当者(所属)	池脇 信直 (生・医)	時間数	30	AL科目	『O』
配当学科(学年)	社会福祉学部・臨床心理学部(1年)	必修・選択	必修		
開講学期	2022年度前期	授業形態	講義・SGD		
授業の概要・一般目標(GIO)	<p>QOLと人間の尊厳では、他の人と共存して生きる人間のよりよい人生とは何かを、「QOL」と「人間の尊厳」の二つの観点から学ぶ。病気や障がいを持ちながら人生を全うすることの意味を知ることが、社会人としての基本的な態度を形成する上で重要である。「QOL」では、健康・疾病・障がいの関連をもとに「より良い人生」とは何かを理解するために、言葉の持つ意味を中心に人生や生活におけるquality(質)を科学的・構造的に考えるための基礎知識を修得する。</p> <p>「人間の尊厳」とは、どのような概念であろうか？例えば、「尊厳死」とは本人の人生観に基づいて延命治療を行わないことである。この事例のように、医療・福祉に携わる私たちは、本人の人生観を自分の基準とは異なるものとして否定しないこと(人間の尊厳)が特に求められる。「人間の尊厳」では、人間の尊厳を守ることができる人となるために、他人の価値観を否定せず容認する考え方を修得する。</p> <p>授業はQOLと人間の尊厳に関するトピック(話題)をスモールグループディスカッション(SGD)方式で進める。また、本授業に関連したミニデモンストレーションを取り入れたアクティブラーニング(AL)を行う。</p>				
到達目標(SBOs)	<p>1)教育や学びから人生や生活における「質」と「人間の尊厳」を理解し説明できる。</p> <p>2)QOLの言葉の意味を理解し説明できる。</p> <p>3)QOLと健康・疾病・障がいとの関連性を理解し説明できる。</p> <p>4)QOLと公衆衛生活動との関連性を理解し説明できる。</p> <p>5)人間の尊厳と社会との関連性を理解し説明できる。</p> <p>6)人間の尊厳と自分の轍(わだち)・キャリア・人生・希望との関連性を理解し説明できる。</p>				
実務経験のある教員による教育	科目担当者である池脇信直は大学病院等で10年以上の実務経験に基づき、最新の情報と資料を提供しながら授業を行う。				
評価方法	受講態度・講義中に行うディスカッション・毎回の講義後のレポート提出によって評価する。すなわち、毎回の授業終了後に理解度テスト(レポート課題)を行うと共に、その結果(成果)をフィードバックする。SGD及びAL型授業において、学習への取り組み姿勢(理解度テストの実施、課題提出、積極的な質問や発言などの授業への参加)を50%、学期末の定期試験を50%として単位認定を行う。詳細な評価基準は、授業開始日に資料を配付して丁寧に説明する。				
準備学習・履修上の注意等	授業は主に「QOLと人間の尊厳」に関する課題を提供すると共に、その課題をSGD及びAL型(プレゼンテーション)授業を通して解決する形で進める。予習としては、提供される課題に対して、参考書等を用いて前もって調べる、いわゆる「反転授業」を行うことが大切である。復習としては、毎回の単元で獲得した情報を講義ノート、講義プリント・資料を丹念に読み返し、理解を深めることが重要である。毎回の授業の前後、週末および長期休暇期間を使って、計29時間の自己学習を行うこと。すなわち、1回の授業につき4時間以上を目安に予習と復習を行うこと。授業内容の順番は入れ替わることがある。また、教材が変更されることもあるので注意すること。				
オフィスアワー	毎週月曜日～金曜日：12:20～13:00				
授 業 計 画					
回数	SBOs No.	授業内容	授業方法	担 当	
1	1)	人間の尊厳と教育を考える～建学の理念からの考察～(理事長&専務理事講和)	講義・SGD	池脇	
2	2)	QOLの意味について考える①	講義・SGD	池脇	
3	2)	QOLの意味について考える②	講義・SGD	池脇	
4	3)	健康・疾病・障がいからQOLを考える①	講義・SGD	池脇	
5	3)	健康・疾病・障がいからQOLを考える②	講義・SGD	池脇	
6	3)	健康・疾病・障がいからQOLを考える③	講義・SGD	池脇	
7	4)	QOLと公衆衛生活動を考える①	講義・SGD	池脇	
8	4)	QOLと公衆衛生活動を考える②	講義・SGD	池脇	
9	5)	人間の尊厳と社会の仕組みを考える	講義・SGD	池脇	
10	5)	人間の尊厳と社会が求めていることを考える	講義・SGD	池脇	
11	6)	人間の尊厳と自分の轍(わだち)を考える	講義・SGD	池脇	
12	6)	人間の尊厳と人生を考える	講義・SGD	池脇	
13	6)	人間の尊厳とAI時代を考える	講義・SGD	池脇	
14	6)	人間の尊厳と希望を考える	講義・SGD	池脇	
15	1)2)3)4)5)6)	まとめ	講義・SGD	池脇	
教科書(著者名)出版社名【ISBN】					
使用しません。					
参考書(著者名)出版社名【ISBN】					
資料(プリント)を配付します。 参考書を紹介します。					

科目名	英語	授業コード	110026B601	単位数	2単位
担当者(所属)	上田 留理 (非常勤講師)	時間数	30	AL科目	○
配当学科(学年)	臨床心理学科(1年)	必修・選択	選択		
開講学期	2022年度前期	授業形態	講義		
授業の概要・一般目標(GIO)	Students will be able to improve their reading, writing, listening, speaking by comprehending English materials regarding to various subjects. Students will be expected to be involved actively in all class activities and tasks.				
到達目標(SBOs)	1) Students will be able to improve reading skill by comprehending grammar/structure of English. 2) Students will be able to comprehend basic writing skill through translation practices. 3) Students will be able to improve English communication skill through class activities. 4) Students will be able to comprehend listening skill through dictation practices. 5) Students will be confident expressing their ideas and opinions in English.				
実務経験のある教員による教育	This class is designed and conducted based on the experiences of the instructor who had worked as an interpreter and a translator. The instructor was also educated and trained to teach active learning based on the CALA method which had been created for students of ESL.				
評価方法	Total evaluation on class attitude (40%), reports (30%), and a comprehensive examination (30%).				
準備学習・履修上の注意等	Bring English/Japanese and Japanese/English dictionaries. Read assigned English materials to prepare for the classes.				
オフィスアワー	After classes				

授 業 計 画

回数	SBOs No.	授業内容	授業方法	担 当
1	1) 2)3)4)	Introduction of the Class	講義・演習	上田
2	3)5)	Intercultural Communication (Group Activity)	講義・演習	上田
3	1) 2) 3) 4)	Cell Phone - Mobile Phone Addict & Reduce Amount of Time to Use	講義・演習	上田
4	1) 2) 3) 4)	Cell Phone - Mobile Phone Addict & Reduce Amount Time of Use	講義・演習	上田
5	1) 2) 3) 5)	Process of Learning English (Practical Activity)	講義・演習	上田
6	1) 2) 3) 5)	Process of Learning English (Practical Activity)	講義・演習	上田
7	1) 2) 3)	Eight Steps Towards a More Satisfying Life	講義・演習	上田
8	1) 2) 3)	Eight Steps Towards a More Satisfying Life	講義・演習	上田
9	3) 4) 5)	Listening and Understanding English on DVD Material	講義・演習	上田
10	3) 4) 5)	Listening and Understanding English on DVD Material	講義・演習	上田
11	1) 2) 3) 4) 5)	Discussion regarding the contents on the DVD Material	講義・演習	上田
12	2) 3) 5)	How to Develop Communication Skills Necessary for Personels in Clinical Psychology Fields	講義・演習	上田
13	2) 3) 5)	How to Develop Communication Skills Necessary for Personels in Clinical Psychology Fields	講義・演習	上田
14	1)2)3)4) 5)	Open Subject related to Clinical Psychology (the subject chosen by students and necessary materials prepared by the instructor)	講義・演習	上田
15	1) 2) 3) 4) 5)	Review for the course	講義・演習	上田

教科書 (著者名) 出版社名 【ISBN】

使用しない。

参考書 (著者名) 出版社名 【ISBN】

使用しない。

科目名	英語コミュニケーション		授業コード	110031B601	単位数	2単位
担当者(所属)	上田 留理 (非常勤講師)		時間数	30	AL科目	○
配当学科(学年)	臨床心理学科1年		必修・選択	選択		
開講学期	2022年度後期		授業形態	講義・演習		
授業の概要・一般目標(GIO)	Students will improve their English communication ability by using their knowledge, experiences and information regarding to various fields.					
到達目標(SBOs)	1) Students will improve their English comprehension skill through class lectures. 2) Students will improve their English communication skills through class activities. 3) Students will improve their five English skills such as listening, speaking, reading, writing and thinking.					
実務経験のある教員による教育	This class is designed and conducted based on the experiences of the instructor who had worked as an interpreter and translator. This instructor was also educated and trained to teach active learning based on CALA method which had been created for ESL students.					
評価方法	Total evaluation on class attitude, reports, and a comprehensive examination.					
準備学習・履修上の注意等	Bring English/Japanese and Japanese/English dictionaries. Read assigned English material to prepare for the classes					
オフィスアワー	After classes.					
授 業 計 画						
回数	SBOs No.	授業内容	授業方法	担 当		
1	1-3)	Introduction of the Class	講義・演習	上田		
2	1-3)	How to write logical reports in English	講義・演習	上田		
3	1-3)	How to prepare for a presentation (1)	講義・演習	上田		
4	1-3)	How to prepare for a presentation (2) understanding an audio and visual material as an example.	講義・演習	上田		
5	1-3)	How to prepare for a presentation (3): Choose a theme for a presentation (group activity)	講義・演習	上田		
6	1-3)	Preparation to give a presentation in a class (group activity) ①	講義・演習	上田		
7	1-3)	Preparation to give a presentation in a class (group activity) ②	講義・演習	上田		
8	1-3)	Giving a presentation in a class ①	講義・演習	上田		
9	1-3)	Giving a presentation in a class ②	講義・演習	上田		
10	1-3)	Review and discuss regarding presentations given in a class	講義・演習	上田		
11	1-3)	Learning about English activities for different age groups	講義・演習	上田		
12	1-3)	Making English activities for different age groups ①	講義・演習	上田		
13	1-3)	Making English activities for different age groups ②	講義・演習	上田		
14	1-3)	Presenting English activities created by students	講義・演習	上田		
15	1-3)	Review for the course	講義・演習	上田		
教科書 (著者名) 出版社名 【ISBN】						
使用しない						
参考書 (著者名) 出版社名 【ISBN】						
使用しない						

科目名	キャリア教育	授業コード	110005B601	単位数	2単位
担当者(所属)	横山 裕 (心・心)	時間数	30	AL科目	○
配当学科(学年)	臨床心理学科(2年)	必修・選択	選択		
開講学期	2022年度前期	授業形態	講義		
授業の概要・一般目標(GIO)	本講義の目標は、「豊かな人間性、高いコミュニケーション能力、高度な臨床的知識を備えた言語聴覚士または公認心理師」になるために(DP1,2,4)、社会人としての基礎を身につけながら、並行して専門職を目指す者としての基礎を身につけることにある(CP1,2)。				
到達目標(SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自分の特徴(いわゆる長所・短所)を客観視する。 2) 自分と社会との接点に気付く。 3) 言語聴覚士及び公認心理師の仕事の社会的側面について知る。 4) 自己キャリアデザインに必要なスキルについて知る。 5) 人生100年時代を生きる意味と社会構造の変化へ対応する意味を理解する。 				
実務経験のある教員による教育	キャリアアカウンセラーとして5年以上の実務経験を有する。				
評価方法	授業毎の小テストやレポート課題により形式的評価を行う。学習への取り組み姿勢(課題の提出状況、小テスト、授業の参加態度など)の評価を50%、学期末の総括レポートを50%として単位認定を行う。				
準備学習・履修上の注意等	医療や福祉のみならず、政治・経済など各自のキャリアデザインに関する最新の動向について関心を持つように心がけること。また、自分の長所・短所を知り、長所は伸ばす、短所は改善することが人生100年時代の新しい生き方を身につけるために重要である。				
オフィスアワー	教員のオフィスアワーに準ずる。				

授 業 計 画

回数	SBOs No.	授業内容	授業方法	担 当
1	1),2)	キャリアとは何か理解する。	講義	横山
2	1),2)	キャリア教育の意味について考える。	講義・SGD	横山
3	1),2)	自己のキャリアを考える視点を理解する。	講義	横山
4	1),2)	自己のキャリアを形成する方法について学ぶ。	講義	横山
5	3)	キャリアデザインにおける資格について考える。	講義	横山
6	1),2),3)	自己のキャリアプランを立ててみる。	講義	横山
7	1),2),3)	他者のキャリアを理解する。	講義・SGD	横山
8	3),4)	医療、保健領域を取り巻く状況を理解する。	講義	横山
9	3),4)	人生100年時代を取り巻く社会状況を理解する。	講義	横山
10	3),4)	キャリアデザインに必要なスキルを理解する(1)社会構造	講義	横山
11	3),4)	キャリアデザインに必要なスキルを理解する(2)産業構造	講義	横山
12	3),4)	キャリアデザインに必要なスキルを理解する(3)経済社会	講義	横山
13	3),4)	キャリアデザインに必要なスキルを理解する(4)個性と多様性	講義	横山
14	1)~5)	人生100年時代に必要なキャリアを理解する。	講義・SGD	横山
15	1)~5)	総括	講義	横山

教科書(著者名) 出版社名【ISBN】

特にありませんが、教員より参考書等文献の指示があります。

参考書(著者名) 出版社名【ISBN】

教員の指示に従ってください。

科目名	コミュニケーション論		授業コード	110007B101	単位数	2単位
担当者(所属)	清水 径子(福・福)		時間数	30	AL科目	○
配当学科(学年)	臨床福祉学科・スポーツ健康福祉学科・臨床心理学科・動物生命薬科学科(1年)		必修・選択	選択		
開講学期	2022年度後期		授業形態	演習・講義		
授業の概要・一般目標(GIO)	<p>【授業の概要】 社会が求める能力の一つに「コミュニケーション力」が挙げられています。授業内容は基礎的な敬語及びマナーを学習し、様々な相手や場面に応じた基本的なコミュニケーション技術、援助的態度に必要なコミュニケーション能力についての講義形式および(グループ)ワーク形式で実施します。(福:DP(3)(4))</p> <p>【一般目標】 コミュニケーション論では、保健・福祉・医療など幅広い現場における対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得することを目的としています。また、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養います。(福:CP1(1)CP2(11))</p>					
到達目標(SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> 1)社会が求めるコミュニケーションとは何かを考え、説明できる。 2)テキストを読み、自分の意見を書くことができる。 3)基礎的な敬語・マナーを用いることができる。 4)自分自身の物の見方や価値観に気付き、他者との違いを知る。 5)様々な相手や場面に応じた適切な言葉遣いができる。 6)相手に伝わる話し方を考え、実践できる。 7)相手の話を聴くための方法を考え、実践できる。 8)人間関係づくりのための演習に積極的に参加する。 9)人間関係を形成するために必要な心理的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できる。 10)組織に必要なリーダーシップ等チーム内でのコミュニケーションの基本が理解できる。 					
実務経験のある教員による教育	外部講師として日本ベップトーク普及協会の講師を招き、活気・元気・勇気を与えるためのトーク術としてベップトークを紹介する。学生自身が前向きになり、周囲の人たちを励ますことができるようなコミュニケーション方法を学ぶことができる。					
評価方法	授業態度(質問・発言などの積極的な参加、返却物の受け取り)及び課題提出状況を50%、学期末の単位認定試験を50%として評価する。課題提出については、授業中に提示したレポート課題は後日、採点して返却する。ただし、単位認定試験については、60%以上得点することが単位取得の条件となる。詳細な評価基準は、授業開始日に資料を配布し説明する。					
準備学習・履修上の注意等	原則、遅刻・欠席をしない。授業開始時に基礎的な敬語のテストを行う。また、授業後には課題に取り組み、提出期限を厳守すること。					
オフィスアワー	授業の前後、それ以外は研究室前に掲示する。					
授 業 計 画						
回数	SBOs No.	授業内容	授業方法	担 当		
1	1)2)3)5)9)	オリエンテーション 社会問題となっているコミュニケーション不足について 敬語:自己紹介・挨拶・質問・返答の方法	講義・演習	清水		
2	1)2)3)5)9)	コミュニケーション力低下の背景 敬語:理解・確認・接客・取次 課題①:コミュニケーションが減少した背景をまとめなさい。	講義・SGD	清水		
3	1)2)3)5)9)	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎① コミュニケーションのメカニズムを理解する。 敬語:電話のかけ方・受け方	講義・SGD	清水		
4	1)3)5)9)	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎② コミュニケーションの常識、非常識を考える。 敬語:Eメール・手紙 課題②:コミュニケーションとは何かまとめなさい。	講義・演習	清水		
5	1)2)3)6)8)9)	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎③ 相手に伝わる言語表現について理解し、考えることができる。 敬語:報連相・ビジネス用語	講義・SGD	清水		
6	1)2)3)7)8)9)	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎④ 相手の伝えたいことを聴く力について理解する。 敬語:内と外との関係・アポイントメントをとる 課題③:事例を読み、会話の中で気を付けることをまとめなさい。	講義・SGD	清水		
7	3)4)5)8)9)	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎⑤ 自己覚知をし、他者との違いを学ぶ。 敬語:取引先への訪問・面会	講義・SGD	清水		
8	3)4)5)8)9)	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎⑥ 他者との価値観の違い、自分自身の価値観への気づきが促される。 敬語:相互理解・謝罪・案件の保留 課題④:コミュニケーションを図る際に自己覚知する理由をまとめなさい。	講義・SGD	清水		
9	1)3)5)8)9)	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎⑦ 社会人として必要な基礎的なコミュニケーションの常識や技術を学ぶ。 敬語:お礼・お断り・携帯電話のマナー	SGD	清水		
10	3)4)5)6)8)10)	チームマネジメント① 話し方、聞き方の自分の特徴について知る。	講義・演習	清水		

		敬語：接待・クレーム対応 課題⑤：話し方、聞き方の自分の特徴をまとめなさい。		
11	3)5)6)7)8)10)	チームマネジメント② リーダーシップ・チームワークに必要なコミュニケーションを学ぶ。 敬語：冗長表現・社内での会話・ひとの呼称	講義・SGD	清水
12	5)6)8)10)	チームマネジメント③ コミュニケーションの実際（ベップトークを学ぶ） 課題⑥：多様なコミュニケーション方法についてまとめなさい。	講義・SGD	外部講師
13	3)5)6)7)8)10)	チームマネジメント④ 双方向コミュニケーションの重要性について学ぶ。 敬語：ものの呼称・社会人のマナー	S G D	清水
14	3)5)6)7)8)	相談される場面でのコミュニケーション方法を学ぶ。 敬語：社会人のマナー②・配慮のある一言	S G D	清水
15	3)5)6)7)8)	まとめ 様々な場面に応じた言葉遣いに関して再確認する。 敬語：日常会話・冠婚葬祭	S G D	清水
教科書（著者名）出版社名【ISBN】				
コミュニケーション力～人間関係づくりに不可欠な能力（渡邊忠・渡辺三枝子）一般社団法人雇用問題研究会【978-4-87563-259-7】				
参考書（著者名）出版社名【ISBN】				
使用しない。				

科目名	日向国地域論		授業コード	110125B401	単位数	2単位
担当者(所属)	横山 裕(福・福)		時間数	30	AL科目	
配当学科(学年)	スポーツ健康福祉学科・臨床福祉学科・作業療法学科・言語聴覚療法学科・視機能療法学科・臨床工学科・薬学科・動物生命薬科学科・生命医科学科・臨床心理学科(1年)		必修・選択	選択		
開講学期	2022年度後期		授業形態	講義		
授業の概要・一般目標(GIO)	九州保健福祉大学はその設立より延岡市を始めとして宮崎県北部地域に密着した大学として発展してきた。本講義と通じてこの発展をさらに良きものとし学生が地域とより深く交流するための推進力を身につけることを目標とする。					
到達目標(SBOs)	1)地域の歴史や文化について説明できる。 2)地域に期待される大学像を知る。 3)地域における男女の生き方について説明できる。 4)地域の災害の歴史と現在の危機管理について説明できる。 5)地域における一次産業とその文化について説明できる。 6)地域の産業とまちづくりについて説明できる。 7)地域の医療・保健と健康政策について説明できる。 8)地域の暮らしと福祉の歩みについて知る。 9)地域の観光と娯楽の変遷について知る。					
実務経験のある教員による教育	行政、観光、まちづくりなど多方面にわたって地域における実務経験を有する講師を招聘している。					
評価方法	毎講義後に提出物(小レポート)を課し、その評価(100%)によって行う。					
準備学習・履修上の注意等	外部講師にご講義いただくので礼を失することのない受講態度で臨むこと。					
オフィスアワー	月水金12:30~13:00					
授 業 計 画						
回数	SBOs No.	授業内容	授業方法	担 当		
1	1)~8)	これまでの講義概要を理解し、地域について知ることの意義を理解する。	講義	横山		
2	1)	宮崎県北地域の文化財及びその保護活動について理解し、歴史と文化との関係性を理解する。	講義	横山・外部講師		
3	2)	県北地域に芸術活動の現状を理解し、地域と世界の芸術交流の未来のあり方を理解する。	講義	横山・外部講師		
4	4)	県北地区の一次産業の歴史と現状を知り、それが育んできた豊かさを理解する。	講義	横山・外部講師		
5	5)	県北地域の第三次産業の現状を理解し、商業と街づくり・人づくりの関係について理解する。	講義	横山・外部講師		
6	6)	県北の自然の魅力を知り、自然を生かしたまちづくりの現状を理解する。	講義	横山・外部講師		
7	7)	県北地域の税金をとりまく現状を理解し、これからの正しい納税者のあり方を身につける。	講義	横山・外部講師		
8	7)	県北地域が経験した災害とそれに対処してきた歴史を知り、蓄積された先人の知恵と現在の対応を知る。	講義	横山・外部講師		
9	1)6)	県北地域の行政の現状を知り、様々な問題に対してどのような取り組みがなされているのか理解する。	講義	横山・外部講師		
10	1)	県北地域の教育について知り、地域の人材育成がどのように実践されているのかを理解する。	講義	横山・外部講師		
11	8)	県北地域における観光資源の発掘、観光地環境整備、地元プロモーション活動の現状を知り、県北地区の観光の可能性について理解する。	講義	横山・外部講師		
12	1)	宮崎県北地域に伝わる神話や今日にいたる様々な歴史について理解する。	講義	横山・外部講師		
13	3)	県北地域の自然環境と暮らしとの関係を知り、これからの環境保護活動について理解する。	講義	横山・外部講師		
14	1)	県北地域で行われている薪能について知り、それが市民共同運動へと発展していった経緯について理解する。	講義	横山・外部講師		
15	1)~8)	講義を通じて学んだことをふりかえり各自が地域について考えたことをまとめる。	講義	横山		
教科書(著者名) 出版社名 【ISBN】						
必要に応じて別途指示する。						

参考書（著者名） 出版社名 【ISBN】

必要に応じて別途指示する。

科目名	ボランティア活動		授業コード	110151A401	単位数	1単位
担当者(所属)	松原由美(福・臨) 藤原幸子(福・臨)		時間数	30	AL科目	○
配当学科(学年)	スポーツ健康福祉学科・臨床福祉学科・作業療法学科・言語聴覚療法学科・臨床工学科・薬学科・動物生命薬科学科・生命医科学科(1年)		必修・選択	選択		
開講学期	2022年度前期、2022年度後期		授業形態	講義・演習及び活動		
授業の概要・一般目標(GIO)	<p>今日、地域社会においては「地域共生社会」の在り方が問われており、私たちは社会の構成員として、フォーマルなものからインフォーマルなものまで、様々な領域や場面で社会活動に参加し、貢献する役割が求められている。ボランティア活動は、私たち一人ひとりが身近なことから社会的課題を考えて主体的に取り組む社会参加活動である。この授業では、ボランティア学習をととして、地域社会に貢献する心を育み、身近な生活の課題や地域社会問題の理解と社会への参加を目指す。</p> <p>授業は、講義と演習及びボランティア実践活動を中心に進められる。実践活動報告書の評価や中間における自己評価、授業最終日にまとめた評価を行う。</p>					
到達目標(SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> 1) ボランティア活動の意義と意味について理解し、説明することができる。 2) 受け入れ先の施設・団体の社会的な役割や多世代の価値観を理解することができる。 3) 個々の興味・関心や専門分野に関連するボランティア活動に、主体的かつ計画的に参加することができる。 4) 対人援助の基礎として、身近な生活課題や地域社会問題を理解し、各領域における実践を念頭に置きながら活動することができる。 5) 社会的マナーを理解し、契約(約束)を守ることができる。 6) ボランティア体験を他者と共有するための演習等に積極的に参加し、他者の意見に耳を傾け、自分の思いを言語化することができる。 7) 受け入れ先の施設・団体の目的を理解し、大学生ボランティアとしての役割について考察し、ボランティア体験で得た学びを、他者と共有することを通して、学習を深化させることができる。 8) 報告書の意義を理解し、適切にわかりやすく、正確に書く事ができる。 9) 個々の体験から得たものを言語化し、報告会にて発表することができる。 10) 薬学教育モデル、コアカリキュラムとの対応ができる。 					
実務経験のある教員による教育	<p>科目担当者は、学校や児童福祉施設などの地域貢献活動等での5年以上の実務経験に基づき、「ボランティア活動」の習得を目的とした授業と実践指導を行う予定。また、外部講師として、ボランティア要請団体、ボランティアコーディネーター等の実践者を招く予定。</p>					
評価方法	<p>授業後における小レポートと演習及び学習への取り組み姿勢(レポート等の提出状況、授業態度)の評価を30%、活動内容及び報告書を70%にし、包括的に評価する。</p>					
準備学習・履修上の注意等	<p>最初の3コマはオリエンテーション、ボランティア活動を行うための心得や社会的マナーなどの指導、ボランティアコーディネーター実践者からの講話、記録についてなどを事前学習として、座学で学ぶ。その後5月から翌年1月末までの間で10回程度のボランティアを実践し報告書を作成する。ボランティアを行う事については内容や団体などに一定の基準を設ける。ボランティアを実施する場合は大学が認定したものに限る。年間を通して、活動実践の報告、振り返り、評価のための授業(演習)を3回程度、実施する。</p> <p>また、後期の最後に到達目標に関する試験を実施する。受講者はボランティア保険に加入すること。</p>					
オフィスアワー	時間割が確定後研究室に掲示する					
授 業 計 画						
回数	SBOs No.	授業内容	授業方法	担 当		
1	1) 2) 3) 10)	<p>【事前学習①】</p> <p>1, オリエンテーション</p> <p>① 授業目標、意義、年間授業計画について理解する</p> <p>② 活動方法、手続きについて理解する</p> <p>③ 授業評価、単位認定方法について理解する</p> <p>④ ボランティア活動のルールとマナーについて理解する</p> <p>・ 窓口、ボランティア掲示板、学生連絡先の確認、自己紹介書の提出について</p> <p>2, 講義</p> <p>「今日におけるボランティアの意義」について理解する</p>	講義 演習	担当教員		
2	1) 2) 3) 10)	<p>【事前学習②】</p> <p>1, 講義と演習</p> <p>① ボランティア活動とボランティア保険についてについて理解し、加入する。</p> <p>② 年間ボランティア活動計画の策定について理解し、作成する。</p> <p>③ 活動報告書の意義と書き方について理解し、書くことができる。</p> <p>④ ボランティア活動実践に向けての心得について理解する</p>	講義・演習	担当教員・外部講師		
3	1) 2) 3) 10)	<p>【事前学習③】</p> <p>1, 講義</p> <p>ボランティア活動の実践事例を通して、ボランティアの内容を具体的に理解する。</p>	講義	担当教員・外部講師		
4	3) 4) 5) 8) 10)	<p>【ボランティア活動実践】</p> <p>ー5月から12月までに、10回のボランティア活動を実践する。ー</p> <p>掲示板で紹介するボランティアから、個々の興味・関心や専門分野に関連するボランティア活動に参加し、活動報告書に記録を書く。活動報告書は教員の添削を受ける。</p>	実践	担当教員		
5	3) 4) 5) 8) 10)	【ボランティア活動実践】	実践	担当教員		
6	3) 4) 5) 8) 10)	【ボランティア活動実践】	実践	担当教員		

7	6)7)9)10)	【振り返り】 1,講話(先輩に聞く) ボランティア活動の意義と実践について 2,演習 前期の実践について評価し、レポートを書く	講話・演習	担当教員
8	3)4)5)8)10)	【ボランティア活動実践】	実践	担当教員
9	3)4)5)8)10)	【ボランティア活動実践】	実践	担当教員
10	6)7)9)10)	【活動報告と評価】 1,活動報告① 計画を達成した学生から聞く 2,演習(実践の評価) 前期及び夏休みの実践について振り返る ①これまでの活動の自己評価をする ②達成した学生から得たものは何かレポートを書く。 ③今後の計画の見直しをする。	演習	担当教員
11	3)4)5)8)10)	【ボランティア活動実践】	実践	担当教員
12	3)4)5)8)10)	【ボランティア活動実践】	実践	担当教員
13	1)6)7)10)	【講義と評価】 1,講義 地域貢献とボランティア活動 2,演習(実践の評価) これまでの実践について振り返る ①これまでの活動の自己評価をする ②達成した学生から得たものは何かレポートを書く。	講義・演習	担当教員・外部講師
14	3)4)5)8)10)	【ボランティア活動実践】	実践	担当教員
15	3)4)5)8)10) 6)7)9)10)	【活動報告と最終評価】 1,活動報告③ 計画を達成した学生から聞く 2,演習(実践の最終評価) ①実践の根拠を持った評価をする。 ②ボランティア活動の意義について考える。(レポート)	演習	担当教員
教科書(著者名) 出版社名【ISBN】				
講義時に配布するプリントなどを使用する。				
参考書(著者名) 出版社名【ISBN】				
講義時に配布するプリントなどを使用する。				

科目名	実務実習Ⅰ		授業コード	120511J301	単位数	10単位
担当者(所属)	徳永仁、大倉正道、大塚功、木村博昭、黒川昌彦、白崎哲哉、鈴木彰人、高村徳人、比佐博彰、松野康二、山崎哲郎、山本隆一、横山祥子、渥美聡孝、緒方賢次、甲斐久博、興梠靖幸、園田純一郎、田原佳代子、鳥取部直子、堤敏彦、常住淳、日高宗明、吉田裕樹、内田太郎、杉田千泰、中村賢一、長野貴之(全員が薬・薬)、指導薬剤師		時間数	450	AL科目	○
配当学科(学年)	薬学科(5年)		必修・選択	必修		
開講学期	2022年度前期、2022年度後期		授業形態	実習		
授業の概要・一般目標(GIO)	病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤、製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。					
到達目標(SBOs)	<p>改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムとの対応：F薬学臨床 各詳細なSBOsならびに到達度評価(4段階)が、実務実習指導・管理システムに収録されているので、詳細については、必要に応じて閲覧する。実習中は3回にわたって形成評価を行う。</p> <p>(2) 処方せんに基づく調剤</p> <p>① 法令・規則等の理解と遵守 ② 処方せんと疑義照会 ③ 処方せんに基づく医薬品の調製 ④ 患者・来局者対応、服薬指導、患者教育 ⑤ 医薬品の供給と管理 ⑥ 安全管理(医療安全と感染制御)</p> <p>(3) 薬物療法の実践</p> <p>① 患者情報の把握 ② 医薬品情報の収集と評価・活用 ③ 処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案) ④ 処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)</p> <p>(4) チーム医療への参画</p> <p>① 医療機関におけるチーム医療 ② 地域におけるチーム医療</p> <p>(5) 地域の保健・医療・福祉への参画</p> <p>① 在宅(訪問)医療・介護への参画 ② 地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画 ③ プライマリケア、セルフメディケーションの実践 ④ 災害時医療と薬剤師</p>					
実務経験のある教員による教育	実務実習にあたっては、実務実習調整機構等主催の認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップへの参加ならびに講習会に参加し、実務実習指導薬剤師と認定された医療現場の薬剤師(外部講師)が実習生を教育・指導を行う。					
評価方法	<p>①実務実習指導・管理システムで実習指導者(外部講師)により11週間中の4週、8週、11週終了ごとに到達度測定を行う。それをもとに指導者ならびに実習生相互に進捗状況を把握する。最終的には11週終了時点で別途行う指導者の評価(実習に臨む態度も含む)により評点する(50%)。また、その評価のうち、領域4ならびに5については、実習期間中に入力されたレポートと一週間振り返り(週報)をもとに評価する。</p> <p>②教員は、実習終了後に提出する実習報告書の記載内容、各講座・研究室での実習報告会の内容をもとに評点する。さらに、週報作成状況、到達度入力状況、実習報告書をもとに評点を行う(30%)。</p> <p>③出席状況や提出物への対応など(20%)を加味し、実務実習委員会において総括的に単位認定する。</p>					
準備学習・履修上の注意等	<p>実習施設規則の遵守、守秘義務の遵守、実習指導者による指導の遵守。 実務実習開始の前週に、上記に関する注意や書類配布を含む説明会を行う。本説明会は実務実習Ⅰ及び実務実習Ⅱに必須であるので、遅刻、欠席をしないこと。 実務実習指導・管理システムで管理するので、各自必要事項を指示に従って入力するとともに、日々の日誌、週報、レポート等の作成に当たっては、システムを通じて行う。 実務実習の準備として行った実務実習事前学習における修得状況を自己評価したうえで、実務実習に臨むこと。</p>					
オフィスアワー	実習期間中は、実務実習指導・管理システムのメールで担当教員か実務実習担当責任者へ連絡すること。内容によっては、実習センターでも良い。随時電話での対応も行うので、時間帯ごとに事前に示してある連絡先へ連絡するように。					
授 業 計 画						
回数	SBOs No.	授業内容			授業方法	担 当
実習開始前	1)	実務実習全般に関する説明 接遇や身だしなみについて考える： 医療施設の方から話を聴く			講義	全員
1週	2)	実務実習に当たっては、受入れ施設の実務実習実施計画書に基づいて進行する(実務実習指導・管理システム内に収録)。 進捗状況や到達状況によっては、予定変更もある。			実務実習	全員、指導薬剤師
2週	3)	実務実習に当たっては、受入れ施設の実務実習実施計画書に基づいて進行する(実務実習指導・管理システム内に収録)。 進捗状況や到達状況によっては、予定変更もある。			実務実習	全員、指導薬剤師
3週	4)	実務実習に当たっては、受入れ施設の実務実習実施計画書に基づいて進行する(実務実習指導・管理システム内に収録)。 進捗状況や到達状況によっては、予定変更もある。			実務実習	全員、指導薬剤師

4週	5)	実務実習に当たっては、受入れ施設の実務実習実施計画書に基づいて進行する（実務実習指導・管理システム内に収載）。 進捗状況や到達状況によっては、予定変更もある。	実務実習	全員、指導薬剤師
5週	6)	実務実習に当たっては、受入れ施設の実務実習実施計画書に基づいて進行する（実務実習指導・管理システム内に収載）。 進捗状況や到達状況によっては、予定変更もある。	実務実習	全員、指導薬剤師
6週	7)	実務実習に当たっては、受入れ施設の実務実習実施計画書に基づいて進行する（実務実習指導・管理システム内に収載）。 進捗状況や到達状況によっては、予定変更もある。	実務実習	全員、指導薬剤師
7週	8)	実務実習に当たっては、受入れ施設の実務実習実施計画書に基づいて進行する（実務実習指導・管理システム内に収載）。 進捗状況や到達状況によっては、予定変更もある。	実務実習	全員、指導薬剤師
8週	9)	実務実習に当たっては、受入れ施設の実務実習実施計画書に基づいて進行する（実務実習指導・管理システム内に収載）。 進捗状況や到達状況によっては、予定変更もある。	実務実習	全員、指導薬剤師
9週	10)	実務実習に当たっては、受入れ施設の実務実習実施計画書に基づいて進行する（実務実習指導・管理システム内に収載）。 進捗状況や到達状況によっては、予定変更もある。	実務実習	全員、指導薬剤師
10週	11)	実務実習に当たっては、受入れ施設の実務実習実施計画書に基づいて進行する（実務実習指導・管理システム内に収載）。 進捗状況や到達状況によっては、予定変更もある。	実務実習	全員、指導薬剤師
11週	12)	実務実習に当たっては、受入れ施設の実務実習実施計画書に基づいて進行する（実務実習指導・管理システム内に収載）。 進捗状況や到達状況によっては、予定変更もある。	実務実習	全員、指導薬剤師
実習終了後		実務実習報告会	プレゼンテーション	全員

教科書（著者名） 出版社名 【ISBN】

指定なし

参考書（著者名） 出版社名 【ISBN】

指定なし

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

通信教育部 社会福祉学部 臨床福祉学科

区分	科 目 名	単位数	開講年次	授業形態	備 考
専 門 教 育 科 目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	1	T	T：テキスト科目 S：スクーリング科目 M：メディア科目 TS：テキスト・スクーリング科目
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	1	T	
	地域福祉と包括的支援体制	4	2	T	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	1	T	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2	T	
	低所得者に対する支援と生活保護制度	2	3	T	
	介護概論	4	2	T	
	高齢者福祉	4	2	T	
	保健医療サービス	4	2	T	
	認知症の理解	2	3	T	
	発達と老化の理解	2	3	T	
	こころとからだのしくみ	2	3	T	
	更生保護制度	1	4	T	
	権利擁護と成年後見制度	1	3	T	

合計 34 単位

ソーシャルワークの基盤と専門職 I

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 川崎 順子

■使用テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集） 「最新・社会福祉士養成講座第11巻 ソーシャルワークの基盤と専門職」中央法規出版
◆参考テキスト	

講義概要・一般目標

本講座では、社会福祉士と精神保健福祉士いずれの専門職にも共通して求められるソーシャルワークの基盤となる概念や専門性を理解することを目標とします。

したがって、社会福祉士と精神保健福祉士の法的位置づけやそれぞれの役割と意義を学び、専門性を理解していきます。これまでの実践と理論化により獲得してきたソーシャルワークの概念や基盤となる考え方、ソーシャルワークの歴史的形成過程を学びます。

そのことから、今日求められている「総合的かつ包括的な支援」の全体像を理解し、ソーシャルワークの基盤となる専門的機能の内容を学び、専門職としてのあり方を考えていきます。

全体を通して、ソーシャルワークの専門職としての価値、知識、技術の捉え方を体系化し説明できるようになりましょう。

到達目標

- 1) 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
- 2) ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
- 3) ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

実務経験のある教員による教育

科目担当（川崎）は、社会福祉士として行政や社会福祉協議会等での実践現場 5 年以上の経験に基づき、ソーシャルワークの基本的概念や専門職に求められる基本的知識を修得することを目的に添削指導を行う。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰは、テキスト第1章から第5章を範囲とする。
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱは、テキスト第6章から第8章を範囲とする。

- 第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ
社会福祉士及び介護福祉士法の理解（定義・義務・法制度成立の背景等）
精神保健福祉士法の理解（定義・義務・法制度成立の背景等）
社会福祉士及び精神保健福祉士に求められるコンピテンシー
- 第2章 ソーシャルワークの概念
ソーシャルワークの定義
ソーシャルワークの構成要素
- 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方
ソーシャルワークの原理
社会正義・人権尊重・集団的責任・多様性の尊重
ソーシャルワークの概念
当事者主権・尊厳の保持・権利擁護・自立支援・エンパワメント・ノーマライゼーション
ソーシャルインクルージョン・
- 第4章 ソーシャルワークの形成過程
ソーシャルワークの源流と基礎確立期
ソーシャルワークの発展期
ソーシャルワークの展開期と統合化
日本におけるソーシャルワークの形成過程
- 第5章 ソーシャルワークの倫理
専門職倫理の概念
倫理綱領
ソーシャルワーカーの倫理綱領
社会福祉士の倫理綱領
精神保健福祉士の倫理綱領
倫理的ジレンマ

ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 川崎 順子

■使用テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集） 「最新・社会福祉士養成講座第11巻 ソーシャルワークの基盤と専門職」中央法規出版
◆参考テキスト	

講義概要・一般目標

本講座では、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰで学んだことを土台として、社会福祉士の専門性をさらに深める内容を学びます。具体的には、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲を理解し、ソーシャルワーク対象レベル（ミクロ・メゾ・マクロ）への支援の実際と連関性を理解していきます。

そのことから、ジェネラリストの視点で総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義や内容を深めていき、ソーシャルワークの基盤となる専門的機能や専門職としてのあり方を考えていきます。

全体を通して、ソーシャルワーク専門職としての価値、知識、技術の捉え方を体系化し説明できるようになりましょう。

添削課題は、テキストを基本として作成しています。各章に該当するテキスト巻末の索引を利用して、テキストを活用しながら添削課題に取り組み、全体を把握するようにしてください。

到達目標

- 1) 社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。
- 2) ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。
- 3) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。
- 4) 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。

実務経験のある教員による教育

科目担当（川崎）は、社会福祉士として行政や社会福祉協議会等での実践現場 5 年以上の経験に基づき、ソーシャルワークの基本的概念や専門職に求められる基本的知識を修得することを目的に添削指導を行う。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰは、テキスト第1章から第5章を範囲とする。
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱは、テキスト第6章から第8章を範囲とする。

第6章 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
社会福祉士の職域と役割
多様な組織・機関・団体における専門職
諸外国の動向

第7章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象
ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開

第8章 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容
総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点
ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ放火知的な支援の意義と内容
多職種連携及びチームアプローチの意義と内容

地域福祉と包括的支援体制

専門教育科目 / 4 単位 / T 授業

担当教員 山崎 睦男

■使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集）
「最新・社会福祉士養成講座第 6 巻 地域福祉と包括的支援体制」中央法規出版

◆参考テキスト 資料等

- ・日本地域福祉学会(編)「新版 地域福祉事典」中央法規 2006
- ・地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会（地域力強化検討会）地域力強化検討会最終とりまとめ～地域共生社会の実現に向けた新しいステージへ～
- ・「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会（地域共生社会推進検討会）「最終とりまとめ」
- ・「社会福祉六法」中央法規
- ・社会福祉の動向編集委員会「社会福祉の動向 2020」中央法規出版
- ・財務省ホームページ「日本の財政関係資料」
- ・「月刊福祉」全国社会福祉協議会 毎月発行

講義概要・一般目標

地域共生社会の実現に向けて、包括的な相談支援を実施し、地域住民等が主体的に地域課題を解決していくよう支援できるソーシャルワーカーを養成するため、本科目では包括的支援体制と地域福祉の考え方について、その理論、方法を体系的に理解するとともに、それらを推進するうえで欠かせない福祉行財政と福祉計画について学ぶ。また、地域福祉と包括的支援体制を推進していくための地域を基盤としたソーシャルワークの展開について理解を深め、具体的な展開方法について修得する。

なお、本科目に関するテキストをはじめ、参考テキスト・資料等により、基本的知識や地域福祉の動向を修得する。

到達目標

- 1) 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題について説明できる。
- 2) 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制について説明できる。
- 3) 地域福祉ガバナンスと多機関協働について説明できる。
- 4) 地域福祉の基本的な考え方について説明できる。
- 5) 地域を基盤としたソーシャルワークの展開について説明できる。
- 6) 災害時における総合的かつ包括的な支援体制について説明できる。
- 7) 福祉計画の意義と種類、策定と運用について説明できる。
- 8) 国・都道府県・市町村の役割、祉行政の組織及び専門職の役割について説明できる。
- 9) 福祉における財源について説明できる。

実務経験のある教員による教育

科目担当者（山崎）は、地域福祉の実践現場（社会福祉協議会）での 5 年以上の実務経験に基づき、実践的な視点から「地域福祉と包括的支援体制」の習得を目的とした添削指導を行う。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題

この章のポイント

地域社会の概念とコミュニティに関する理論を概観し、我が国のコミュニティ政策の展開について理解するとともに、地域社会の変化によって発生する地域生活課題と対応策について学ぶ。

第2章 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制

この章のポイント

地域共生社会の考え方を学習し、包括的支援体制及び2020（令和2）年の社会福祉法改正で新たに位置づけられた重層的支援体制の具体的な展開方法について学び、実現に向けてのソーシャルワーカーの役割を理解する。

第3章 地域福祉ガバナンスと多機関協働

この章のポイント

地域福祉ガバナンスの概念を理解するとともに、地域福祉ガバナンスを進めるための協議の場の必要性および社会福祉士・精神保健福祉士など専門職の役割や果たすべき機能をについて学ぶ。

第4章 地域福祉の基本的な考え方

この章のポイント

地域福祉の基本的な考え方である「地域福祉の概念と理論」及び「地域福祉の歴史」を一体的に理解するとともに、近年の「地域福祉の動向」における地域福祉の課題と解決を担う「地域福祉の主な推進主体」について学ぶ。また、「地域住民の主体」形成のための方法として「福祉教育」の重要性について理解する。

第5章 地域を基盤としたソーシャルワークの展開

この章のポイント

地域共生社会の実現に向け重要な役割を持つ、地域を基盤としたソーシャルワークであるコミュニティソーシャルワークの考え方やそれが必要となった背景を理解する。また、住民の主体形成を支援するソーシャルワークの視点や方法、コミュニティソーシャルワークの具体的な展開過程について学ぶ。

第6章 災害時における総合的かつ包括的な支援体制

この章のポイント

災害多発時代ともいわれる近年の状況を踏まえ、災害時における法制度について理解するとともに、災害によって生じる課題に対し、どのような地域福祉や包括的支援を行うかについて学ぶ。

第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用

この章のポイント

福祉計画の基本的視点や福祉計画が果たす機能を戦後の福祉計画の歴史を踏まえて理解するとともに、地域福祉（支援）計画の内容について学ぶ。また、福祉計画の策定過程と方法・技術、ニーズ把握と評価の方法・技術について、ソーシャルワークの視点に基づいて学ぶ。

第8章 福祉行財政システム

この章のポイント

国や都道府県、市町村の役割について理解するとともに、地方の分権化の状況と国と地方の関係について学ぶ。また、社会福祉の実施体制と専門職の配置、国家予算及び地方予算における福祉の財源構成について学ぶ。

ソーシャルワークの理論と方法 I

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 児崎 友美

■使用テキスト 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集）
「最新・社会福祉士養成講座第12巻 ソーシャルワークの理論と方法」中央法規出版

◆参考テキスト 福祉臨床シリーズ編集委員会編「新・社会福祉士シリーズ8 ソーシャルワークの理論と方法」弘文堂

講義概要・一般目標

本講座では、「相談援助の基盤と専門職」で学んだ内容について基礎的な項目を再度復習すると共に、実践に近づくことを目的に事例を中心として授業を展開していく。

そこで、本講座受講生は、能動的に事例に取り組み、即ち自らがソーシャルワーカーの立場として課題に取り組むことを期待します。

課題の提示の方法としては、基礎的な項目に対する知識の再点検と事例を下にどのような援助計画や実践を提示していくかということを問う内容を提示していきます。

さらに、制度・政策的な流れについても理解を深め、ソーシャルワーク展開の分野についての特徴についても合わせて理解を深めて下さい。

到達目標

- 1) 本講座では、相談援助の基礎的なことを再度確認することで、ソーシャルワーカーにとって「相談援助」の展開過程を説明できる
- 2) 他の専門職が行う「相談」と何がどう違うのかを理解し、その特徴についても合わせて説明できる

実務経験のある教員による教育

科目担当（児崎）は、福祉現場である特別養護老人ホームに3年、地域包括支援センターに13年という期間、社会福祉士として実務経験を担ってきた。このような実務経験に基づき、実践に必要な相談援助の理論と方法についての知識を修得することを目的に添削指導を行う。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークとは

この章ポイント

本章では、「ソーシャルワークで用いられる理論と概要」について学ぶことを目的としている。ソーシャルワーカーが強みとする「人」「環境」「人と環境の交互作用」の3者に視点を置く根拠や、ソーシャルワーカーとしての考え、語り、行動する際のよりどころとなることを理解し、実践に活かせるようにする。

第2章 ソーシャルワークの過程 —ケース発見とエンゲージメント（インテーク）—

この章ポイント

本章では、ソーシャルワークの展開、特に最初の段階について理解する。その際、困難な状況にある人が援助を受けることを決断するプロセスとソーシャルワーカーに出会うまでの経路について学ぶ。次に、ソーシャルワーカーがクライアントと出会って初めに行うエンゲージメント（インテーク）について学ぶ。援助が必要な人の中には、様々な事情で援助を求めない人がいるため、そのような人たちへのかかわり方についても学ぶ。

第3章 ソーシャルワークの過程 —アセスメント—

この章ポイント

本章では、アセスメントの意義と方法、留意点を理解することを目的としている。このアセスメントにおいては、第1章で学んだ理論とモデルがアセスメントを支えていること、そして実際の技法に活かされていることを意識して欲しい。

第4章 ソーシャルワークの過程 —プランニング—

この章ポイント

本章では、ソーシャルワークの原理と理論・モデルに基づいて、目的、目標、計画内容を設定する方法を学ぶことが目的である。プランニングは、連携や協働の要ともなるものなので留意点についても注意して欲しい。

第5章 ソーシャルワークの過程 —支援の実施とモニタリング—

この章ポイント

本章では、計画を実施するとともに、計画が適切に実施されているか、それによって目標達成に向かって進んでいるかなど、プロセスを確認するためのモニタリングの手続きと留意点について学ぶ。併せて、効果測定の目的と意義についても学ぶ。

第6章 ソーシャルワークの過程 —支援の終結と結果評価、アフターケア—

この章ポイント

本章では、支援の終結を迎えるにあたり行うことを学ぶ。また、支援の全体をふりかえって適切な実践ができたか、実践の効果があったかなど、評価を行う重要性についても学ぶ。したがって、支援の終結、結果評価、アフターケアの考え方や方法を学ぶことが目的である。

第7章 相談援助のためのアウトリーチの技術

この章ポイント

本章では、ソーシャルワーク援助過程における、アウトリーチについて理解を深めることを目的とする。アウトリーチ手法は今後ますます必要とされることが予測され、特に地域包括支援センターの社会福祉士にとって重要な手法でもある。

ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 児崎 友美

■使用テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集） 「最新・社会福祉士養成講座第12巻 ソーシャルワークの理論と方法」中央法規出版
◆参考テキスト	福祉臨床シリーズ編集委員会編「新・社会福祉士シリーズ8 ソーシャルワークの理論と方法」弘文堂

講義概要・一般目標

本講座では、「相談援助の基盤と専門職」で学んだ内容について基礎的な項目を再度復習すると共に、実践に近づくことを目的に事例を中心として授業を展開していく。

そこで、本講座受講生は、能動的に事例に取り組み、即ち自らがソーシャルワーカーの立場として課題に取り組むことを期待します。

課題の提示の方法としては、基礎的な項目に対する知識の再点検と事例を下にどのような援助計画や実践を提示していくかということを問う内容を提示していきます。

さらに、制度・政策的な流れについても理解を深め、ソーシャルワーク展開の分野についての特徴についても合わせて理解を深めて下さい。

到達目標

- 1) 本講座では、相談援助の基礎的なことを再度確認することで、ソーシャルワーカーにとって「相談援助」の展開過程を説明できる。
- 2) 他の専門職が行う「相談」と何がどう違うのかを理解し、その特徴についても合わせて説明できる。
- 3) ソーシャルワーク実践に必要なモデルやアプローチ、面接、記録などについて説明できる。

実務経験のある教員による教育

科目担当（児崎）は、福祉現場である特別養護老人ホームに3年、地域包括支援センターに13年という期間、社会福祉士として実務経験を担ってきた。このような実務経験に基づき、実践に必要な相談援助の理論と方法についての知識を修得することを目的に添削指導を行う。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ

この章ポイント

本章では、ソーシャルワークの「実践モデルとアプローチ」を学ぶことが目的である。まずは、実践モデルやアプローチの意味を理解したうえで、治療モデル、ストレングスモデル、生活モデルの基本的な3つのモデルの特徴を学ぶ。そして、心理社会、機能、問題解決、課題中心、行動変容、認知、危機介入、エンパワメント、ナラティブ、解決志向といったアプローチが誕生した背景やそれぞれの特徴を知識として定着させる。そのためには実践（現場）でこれらの視点や視座、モデルやアプローチを活用できることを意識して取り組む。

第8章 ソーシャルワークの面接

この章ポイント

ソーシャルワーク面接は、ソーシャルワークの全過程において「基本」となる。よってソーシャルワーク面接の意義や目的を理解し、面接の形態や手段、面接が行われる場所の多様性や構造、面接を実施する際の基本的な留意点について学ぶことを目的とする。また、非言語的・言語的双方の側面から、面接の基本的技法について把握し、知識として定着させることを期待する。

第9章 ソーシャルワークの記録

この章ポイント

本章では、ソーシャルワーク記録の意義と目的について学ぶ。また、記録の目的に合わせた「求められる内容」と「好ましくない内容」を把握し、記録の種類やフォーマットなどを活用しながらソーシャルワーカーとして求められる記録とは何かを学んでいく。

第10章 ケアマネジメント（ケースマネジメント）

この章ポイント

本章では、ケアマネジメント（ケースマネジメント）の歴史を整理する。そして、ケアマネジメントの意義や方法、ソーシャルワーカーが習得すべき手法の一つとしてのケアマネジメント（介護保険制度のではない）の本来の意義やモデル、プロセスについて学ぶ。

第11章 グループを活用した支援

この章ポイント

本章では、グループワークについての意義や目的を学ぶとともに、ジェネラリスト実践の視点からいくつかのタイプを学ぶ。そして、グループワーク展開のプロセスやセルフヘルプグループについて事例等に落とし込みながら理解して欲しい。

第12章 コミュニティワーク

この章ポイント

本章では、住民が主体となって地域の問題を解決する力を高める意義と、その方法としてのコミュニティワークを学ぶ。具体的には、実践を支える理論や歴史的流れを理解し、コミュニティワークの展開として、地域アセスメントと計画策定、地域組織化、地域開発、そして評価と実施計画の見直しについて学ぶ。

第13章 ソーシャルアドミニストレーション

この章ポイント

本章では、間接的支援の実践方法としてのソーシャルアドミニストレーションの概念と意義について学ぶ。その上で組織介入・組織改善の実践モデル、組織を運営するための財源の種類や財源確保の方法について学ぶ。

第14章 ソーシャルアクション

この章ポイント

本章では、定義や特徴、展開過程を学ぶ。また、ソーシャルワークにおけるソーシャルアクションの意義を理解していく。そして、コミュニティ・オーガナイズングの考え方や技術、展開過程についても学ぶ。

第15章 スーパービジョンとコンサルテーション

この章ポイント

本章では、スーパービジョンとコンサルテーションの意義や目的、方法について学ぶ。ソーシャルワーカーの仕事は、資格を取得したらすぐにできるものではない。様々な状況に対応できるように学び続ける必要があり、専門性を向上させ、よりよいサービスを提供できるようにする技術を学んで欲しい。

低所得者に対する支援と生活保護制度

専門教育科目/2単位/T授業

担当教員	日田 剛
■使用テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会(編) 『新・社会福祉士養成講座第16巻 低所得者に対する支援と生活保護制度 第5版』 中央法規出版 2019
◆参考テキスト	

講義概要・一般目標

公的扶助は貧困から救済するための最後のセーフティネットとして、国民の生活を保障する制度として機能することが求められている。そのため、公的扶助は人の生存権に深く関わるものであり、その制度の内容や運用が生死を分けるといっても過言ではない。

この科目は、現代社会における低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際を知り、相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に関わる他の法制度について理解することを目的に、生活保護法を中心に低所得対策の理念や意義、その内容を学ぶとともに、生活保護制度の運用にたずさわるソーシャルワーカーの役割について考える。

到達目標

- 1) 公的扶助制度の歴史、公的扶助の理念と意義について理解する
- 2) 生活保護制度と関連制度の仕組み、生活保護の実施と関係専門職の役割を理解する
- 3) 低所得者の動向と課題、低所得者の支援に関する社会保障制度について理解する

実務経験のある教員による教育

実務経験（社会福祉士等 10 年）のある担当教員（日田）による実践に即した指導をおこなう。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 公的扶助の概念

この章のポイント

第1節では、各国に共通する公的扶助制度の基本理念や考え方、その仕組みや内容等を学習することで、公的扶助の概念とその範囲について理解する。また、社会保障制度の中心となる、救貧制度としての公的扶助制度と防貧制度としての社会保険制度を対比することで、公的扶助の基本的性格とその特質についての理解を深める。第2節では、公的扶助の意義と役割・機能について、セーフティネット機能・ナショナル・ミニマム機能を中心として学習する。

第2章 貧困・低所得者問題と社会的排除

この章のポイント

第1節では、公的扶助制度が対象とする貧困・低所得について、生活や社会階層の観点から概念整理を行う。第2節では、貧困の定義と社会的排除について、国内外の研究者による実態調査や理論を中心に学習する。第3節では、現代の貧困・低所得者問題の特徴について理解する。

第3章 公的扶助制度の歴史

この章のポイント

第1節では、社会保障や社会福祉制度の成立と展開が典型的に現れている欧米の歴史を通し、国家が貧困・低所得者問題にどのように対応してきたのかについて学習する。第2節では、欧米との対比において、日本における公的扶助がどのような経緯をたどり、現行の公的扶助制度に至っているのかを理解する。第3節では、日本の貧困・低所得者対策の動向について理解する。

第4章 生活保護制度の仕組み

この章のポイント

第1節、第2節では、生活保護法の目的および基本的な考え方となる4つの原理と、保護を具体的に実施する際の4つの原則について学習する。第3節では生活保護の8種類の扶助の内容等、第4節では生活保護法に規定する5つの保護施設、第5節では被保護者の権利と義務について、また第6節では、不正・不適正受給対策について学習する。第7節では、被保護者の救済制度としての不服申立て制度および訴訟について学習する。第8節では、生活保護制度の財源・予算について学習する。

第5章 最低生活保障水準と生活保護水準

この章のポイント

第1節では、生活保護制度で設定される最低生活保障水準がどのような考え方に基づいているのかについて学習する。第2節では、生活保護基準の中心となる生活扶助基準の算定が、どのような変遷を経て、現行の水準均衡方式となったのかについて理解する。第3節および第4節では、生活保護基準額の実際を知り、その算定方法を学習する。

第6章 生活保護の動向

この章のポイント

第1節では被保護人員および被保護世帯数の動向、第2節では保護の開始・廃止の世帯数や人員およびその原因、第3節では医療扶助、介護扶助の動向について、統計資料をもとに年齢階級、世帯人員別等さまざまな視点から学習し、被保護者（世帯）の特徴を理解する。

第7章 低所得者対策の概要

この章のポイント

第1節では、生活困窮者自立支援法、第2節では生活福祉資金貸付制度、第3節では社会手当制度についてその沿革および制度の基本的内容を学習する。第4節では、近年、取り上げられることが多いホームレスの自立支援対策について、法制化までのプロセスとその内容、その後の展開について学習する。第5節では、公営住宅制度や民事法律扶助制度等、その他の低所得者対策について学習する。

第8章 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体

この章のポイント

第1節では、福祉事務所の沿革を通して、国・都道府県・市町村の役割や生活保護を中心とする実施機関としての福祉事務所の位置づけを学習する。第2節では、現行の福祉事務所の組織体制とその役割について理解する。第3節では、福祉事務所で生活保護の決定や実施にかかわる社会福祉主事の役割について理解する。

第9章 貧困・低所得者に対する相談援助活動

この章のポイント

第1節では、生活保護における相談援助活動の位置づけや枠組み、生活保護決定実施プロセスについての一連の流れを理解する。第2節では、低所得対策における相談援助活動について、生活福祉資金貸付制度、ホームレス支援策を活用した事例をもとに、その問題や課題に対し、ソーシャルワーカーがどのような働きかけをしているのかに着目し、理解を深める。第3節では、相談援助活動を展開するにあたり、どのような関連専門職・専門機関と連携・協働する必要があるのか学習する。

第10章 生活保護における自立支援

この章のポイント

第1節では、生活保護法の目的の1つである自立について、その概念整理を行う。第2節では、自立支援プログラムの導入がこれまでの対人援助活動のなかにどのように位置づけられるのかについて学習する。第3節では、自立支援プログラムの策定方法について学習する。